

重点健康課題 2 歯科保健対策

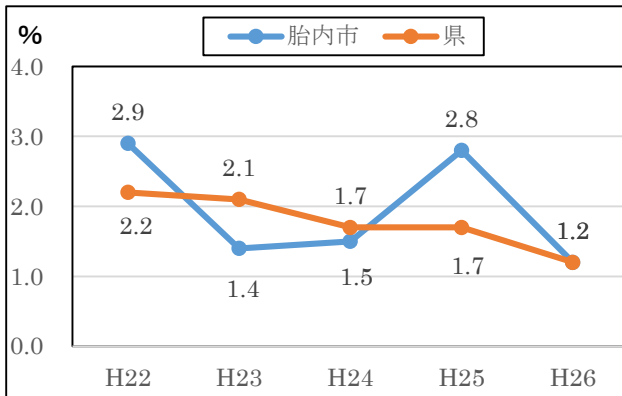
<評価と課題>

乳幼児期の状況は、虫歯のない1歳6か月児の割合は98.8%であり、県平均も98.8%で同じ状況です。また、3歳児一人平均虫歯数は0.55本、5歳児一人平均むし歯数は2.05本で前回計画策定時の目標値は達成したものの、依然として県平均よりも高い現状にあります。

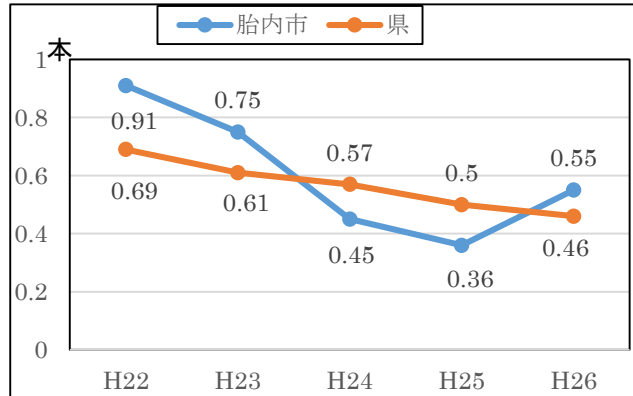
歯科健診の結果では、1歳半でむし歯がなかったのに、2歳で2~3本のむし歯が出来る子がいます

また、2歳で出来た虫歯の治療がなされずに、3歳でさらにむし歯の本数が増え、一人で10本前後の未治療のむし歯を持っている子が毎年数人いる現状があります。

●1歳6か月児むし歯有病状況



●3歳児一人平均むし歯数



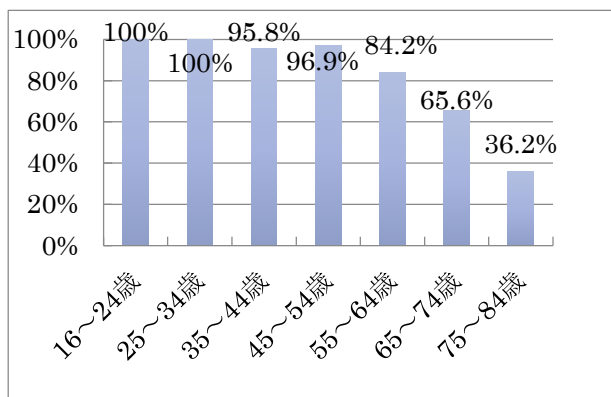
学童期では、胎内市の12歳児一人平均むし歯数は県目標値を達成しているものの、新潟県内での順位はやや下位に位置しています。新潟県と比較すると、G者率は小学生、中学生ともにあまり大きな違いはみられませんが、G0者率は2倍近く胎内市の方が多く、小学2年生以降はほとんどの学年で新潟県よりも多くなっています。

1日3回の歯みがきをしている中学1年生の割合は、5年前より増加したものの、3割程度にとどまっております。中学1年生に実施したアンケートによると、歯科医院にどんな場合に行くかの質問に対して最も高かった項目は、「痛いところがあったら行く」で32.6%でした。定期的に行くようにしていると答えた生徒の割合は、17.2%でした。

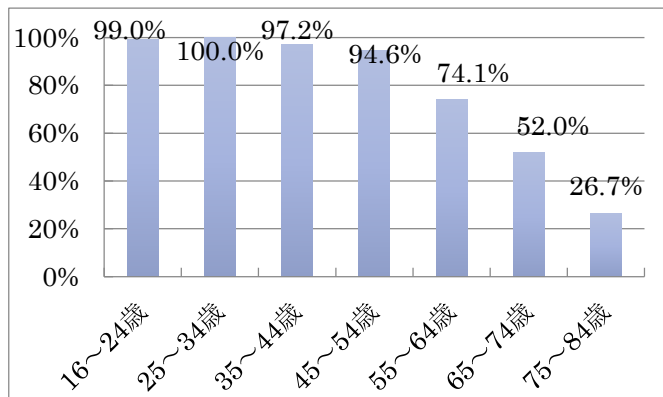
妊産婦では、妊娠期の口腔内は、口の中が不潔になりやすいこと、女性ホルモンの増加などの影響で炎症症状がより強く現れるため歯周疾患が多く見られます。胎児への影響も報告されており、お母さん自身と生まれてくる子どものために、妊娠期から歯科健診を受け、適切なケアや治療を受ける必要があります。産婦の定期受診の割合は15.2%と、平成21年度の12.5%より増加している一方で、多数の産婦が定期的に歯科医院に行っていない現状があります。理由としては、「忙しくて時間がない」「子どもと一緒に歯科健診の機会があれば受けるが、歯科医院に行くのは面倒」等子育てに忙しく、自分自身の歯科受診は後回しになっている背景があると考えられます。

成人・高齢期では、生活習慣アンケート結果から胎内市の8020（80歳で20本以上の歯をもつ）達成者の割合は、36.2%と増加しています。60歳で24本以上有している人の割合は74.1%と増加していますが、目標には達していません。何でも噛んで食べることができるという回答した人の割合は、71.2%で減少しています。一人平均歯数をみると50歳代から減少がみられます。

●自分の歯を20本有している人の割合

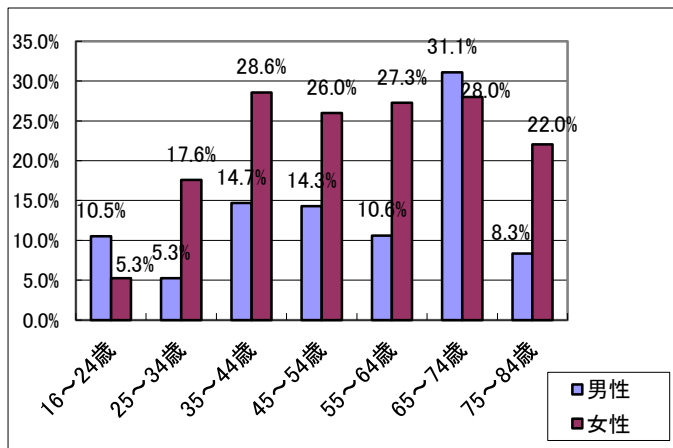


●自分の歯を24本以上有している人の割合

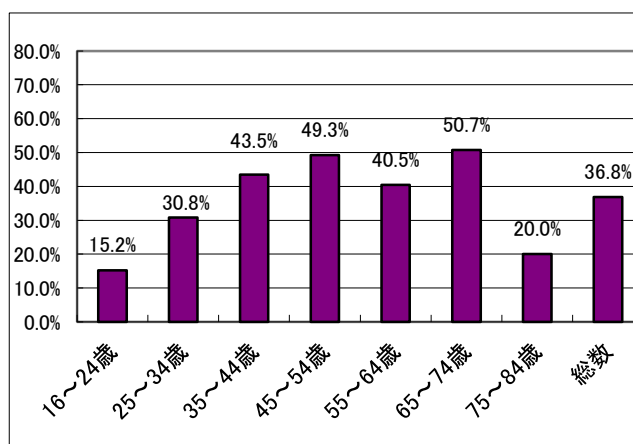


定期的に歯科医院で歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合は、18.1%と増加しています。また、自分で歯間部清掃用具（歯間ブラシやデンタルフロス）を使用している人の割合も36.7%ととも増加しています。しかしどちらも目標値には達していません。どちらも、20～30歳代や男性において低い状況にあり、定期的な受診やセルフケアができるよう意識づくりをしていく必要があります。

●定期的に歯面除去や歯面清掃を受けている人の割合



●歯間部清掃用具を使用している人の割合



市では平成21年から成人歯科健診を行ない、平成24年から対象の拡大もしています。しかし、成人歯科健診受診率は、12.7%と低い状況です。

要介護者・障害者については、今回の要介護者等を対象とした調査結果から、約6割は「かかりつけ歯科医」をもっていますが、介護が必要になってから、歯科治療や健診を受けた人は3割にとどまっています。歯に痛みやかめめないなどの問題があり、歯の治療を受けたいと思った人の中で、実際に歯科治

療を受けた人は、6割弱であり、40.7%の人は治療を受けていませんでした。歯科治療を受けなかった理由として、最も多いのが、「通院困難」でした。

課題

子どもの頃の良い歯の状態を維持できず、成人期に適切な定期受診・セルフケアを行っていない人の割合が高い。(特に若い世代、男性)

<今後の目標値>

目的	市民が胎内市歯科保健計画の理念“おいしく食べて・楽しく会話・健口でいきいき人生 ワッハッ歯”が実現できる
目標	目指せ6024・8020！自分の歯の健康を維持できる

評価指標	平成21年度 実績	平成26年度 実績	H31年度目 標値
60歳(55～64歳)で24本以上の歯を有する人の割合	70.0%	74.1%	75.0%以上
70歳(65～74歳)で20本以上の歯を有する人の割合	55.3%	65.5%	増加
80歳(75～84歳)で20本以上の歯を有する人の割合	30.0%	36.2%	40.0%以上
歯や口腔の悩み事がない人の割合	40.4%	35.5%	50.0%以上
口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人の割合	70.4%	74.3%	85.0%以上
フッ素による虫歯予防の有効性を理解している人の割合	48.3%	50.1%	増加
歯間部清掃用具を使用している人の割合	27.3%	36.7%	45.0%以上
歯・口腔の状態を定期的に自己観察している人の割合 (週1回以上)	28.8%	30.8%	増加
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	11.4%	18.1%	20.0%以上
歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合 (歯みがき)	61.3%	65.8%	増加
歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合 (歯間部清掃用具)	52.5%	57.2%	増加
歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合 (フッ化物配合歯磨き剤)	24.5%	28.0%	40.0%以上
1口30回噛んで食べられると認識している人の割合	19.5%	23.8%	30.0%以上
なんでも噛んで食べられると認識している人の割合 (40歳以上)	76.9%	71.2%	78.0%以上
食事を2人以上で楽しく30分以上かけて食べている人の割合	44.6%	51.2%	増加
明るい胎内市になるには、一人ひとりの元気が大切と思う人の割合	54.9%	91.4%	増加

<対策>

- ・成人歯科健診、1歳親子歯科健診の実施。受診勧奨する。
- ・歯周病予防のため口腔ケアについて健康教育する。
(各地区サロン等、特定保健指導、介護予防事業等)
- ・広報やイベントなどで知識の普及啓発をする。
- ・普及啓発のためにボランティア支援、育成する。(研修、勉強会の開催)
- ・普及啓発のための情報収集と取りまとめをする。
- ・現状や課題を関係機関と共有する場を設ける。

※第2次健口たいないワッハッ歯プラン(胎内市歯科保健計画)と整合を図っています。